ロータリー ライオンズ 青年会議所 キワニス

理事長に聞く

西尾青年会議所は、愛知県内のJCで名古屋青年会議所に次ぐ2番目の会員数を誇る。全国のJCが会員の減少問題に直面するなか、懸命な会員拡大活動により、常に県内上位の会員数を維持している。翌年に創立60周年を控えた本年度は、地域にJCの事業を印象付けるという課題にも向き合う。「西尾市民に、JCに対する一層の理解を求めていく」と話す寺田貴美理事長に、本年度の事業方針などを聞いた。（西尾）

「西尾市民との距離を縮めたい」と話す寺田理事長

略歴 てらだ・きみ　19 75年（昭和50年）生まれ。ケイズジャパン社長。2005年に西尾青年会議所入会。活人委員会委員長、特別専任理事などを歴任。趣味はゴルフ、野球。39歳。

西尾青年会議所 寺田 貴美さん

『まちを変えるのは俺たち』

市民との〝絆〟を育む

―県内で2番目の大所帯を率いる。

「2000年度前後に会員数が100人を切ったのを契機に、危機意識を持って会員拡大に取り組んできた。毎年20人ずつの入会のペースを維持している。本年度は25人の入会を目標に掲げている」

―重点的に取り組む事業とは。

「西尾市民との〝絆〟を育む継続事業は、近年の西尾JCの柱になっている。昨年度は、市内の小学生が地域の未来について意見を交わす『こども会議』を開催した。市民からも好評で、〝絆〟事業の継続を要望された。本年度も地域が抱える問題にも取り組みたい。道徳心を持った子どもを育てるには、まず親世代である大人が人間的に成長しなければならない。大人がやるべきことについて学ぶ機会をつくる」

―西尾JCの課題は。

「行政、教育機関、他の地域団体と連携する機会が少ない。地域を盛り上げるには、JC以外の機関、団体と手を組む必要がある。互いに持っているものを吸収しあう関係を築いていきたい」

―会員に伝えたいことは。

「今はJC全体が品格を問われていると思う。西尾JCは比較的、礼儀は守っているようにみえるが、全員の志が高いとはいえないのが実情だ。会員には、もう一度JCに入会した意義を見詰め直し、今やるべきことを再認識するよう訴えかけていく」

―本年度にかける思いは強い。

「スローガンに掲げた『まちを変えるのは俺たちだ』という言葉を実践していきたい。この言葉はすでに会員間で浸透している。本当の意味で地域に根付き、発展に貢献する存在として認知されることをめざす」

新年交礼会で「まちを変えるのは俺たちだ」と気勢をあげた

昨年度の〝絆〟事業で開催した「こども会議」

主な役員（敬称略）

副理事長＝石山勝範、太田信吾、近藤博司、星野基光▽専務理事＝河合恒一

NEWS&TOPICS

- ROTARY CLUB
- LIONS CLUB
- JUNIOR CHAMBER
- KIWANIS CLUB

寄稿・川崎中1殺害

過剰に協調する若者

親を孤立させない環境に

井子桜智恵

川崎市の中1殺害事件は、なぜこのような事態になったのか重い問いを投げ掛ける。事件の背景にある子どもや家庭を取り巻く厳しい社会状況について、大阪大谷大の桜井智恵子教授（教育学）に寄稿してもらった。

× ×

思春期の子どもとの暮らしはストレスが高い。友人関係や学力など気になることが年々増える。かつては村や街が共に子どもを育ててきた。歴史上初めて親だけで子育てを行う時代に、家庭は孤軍奮闘させられている。

子どもはどうか。

「面白くないときは無理に笑わなくていい」。新入生は、最初に伝えることだ。若者は仲間がいると必死で盛り上がろうと頑張る。「ノリよく明るくテンポよく」の八方美人だらけ。彼らの協調過剰は痛々しい。若者が過剰になると自ら止めることは難しく、やんわり止めるのは大人の仕事だ。

子どもの個別救済に関わる経験から、問題に出あったほとんどの子どもは「大ごとにしないで」と言う。自立圧力が高くなっているからだ。SOSを出すなど人として許されない。一方で常につながっていたい。ハズされると「自分で」緊張を高める。お風呂でもスマートフォンを手放せない。メッセージを読んだと相手には分かるのに返信しない「既読スルー」は仲間内では命取りと思っている。

積極的に責任を一人で引き受け、自己を監視する状況がある。社会学研究では、少年事件は被害側だけでなく加害側も自分で自分を追い詰めていたと実証されている。

近年、社会は「依存」という人として基本的な行為の価値をおとしめてきた。政府の経済的事情から発した「自立支援」が急激に広がり、「自立するなら支援すると、弱音を吐くなど許されない雰囲気に満ちている。責任を一人で引き受け、自分で自分を監視するからこそ過剰になり、うつになる。本当は、日本社会がSOSを出している。

親はどうすればいいか。できるのは、大人が共に過ごしつつ子どもの気持ちを受け取る「時間」を持つこと。ただそれだけのことが難問なのだ。

子どものSOSに、親は多かれ少なかれ気づいている。事件が起きると「なぜうまく対処できなかったか」と親は責められる。親は不器用だ。だから親だけで子育てさせてはいけない。経済的に困窮している家庭は、SOSが分かっていても臨機応変に対応する時間や気力を奪われている。

20世紀の英国で精神分析を応用した小児科医ウィニコットは、子どもが社会に適応していく条件を明らかにした。「誰かと一緒のときにひとりになれる」。人は気遣いしてもらえると確信することで自分が自分でよいのだと分かり、社会とやっていけるようになる。

子どもが自分自身を認める状態を、どう社会的に構想していけるかが教育や子育ての基本だ。そこを社会は見くびり、学力向上に走っている。親が生活に困窮しない状況を社会が確保し、親だけで子育てを頑張りすぎないというまなざしを市民が共有できれば、子どもは必ず生き延びる。

（大阪大谷大教授）

列島・北から南から

▽オラン
北海道旭
ボルネオオ
れ、子育て
22歳の雌
ほどの小さ
坂東元園長
す。問い合
（36）1

▽「モー
仙台市で
（もり）水
ギンの「モ
ペンギンは
の目玉。長ナ
おなかの模
しており、
で関連グッ

▽ひな人
300年
賞してもら
体でつくる
している。
44カ所の
と抽選で賞
ている。問
（621）

▽サツマ
千葉県多
を使ったプ
内の道の駅
濃厚な味わ
商品化は
の一環。べ
に練り込み
で432円

▽伝説体
「牛に引
長野県小諸
の約64キロを
加者2千人
数えで7
月から始ま
スもある。参
小学生25

▽「秀吉
豊臣秀吉
寺（京都市
ターの原案
1点に賞金
A4の1
5－082
26、高台
ンプリ事務

▽足湯施
山口市の
た施設「狐
中原中也記
店選びの
休で足湯な
電話083